

富永讓家文書 目録解題

東京都在住の富永讓氏から寄贈された、旧神田村（現上越市三和区）の富永家伝来の文書群である。富永家は讓氏の生家。『三和村史』（三和村史編さん委員会編、平成14年3月25日発行）編さん時に調査が入り、全10,078点の目録作成とマイクロフィルム撮影がおこなわれた。『三和村史』資料編にも数点が、「富永良一家文書」として掲載されている。

神田村には高名な富永家が3家存在した。いずれも地主として広大な土地を支配し、周辺地域も含めた地域経済や農業生産に大きな影響力を及ぼしていた。

3家のうち1家は「おい（老）の富永」と呼ばれ、土着した武士を起源としていると伝わり、代々神田村庄屋を勤めていた。

この「おいの富永」から分家した護右衛門を祖とするのが、「林富永」と呼ばれた富永家である。近隣に幕府あるいは高田藩の「御林」があったことが呼び名の由来である。かつての豪壮な屋敷を現在も残し、豪農屋敷として定期的に公開されている。

残りは、小字名から「原富永」「原山富永」などと呼ばれた富永讓家で、「林富永」と同様に「おいの富永」から出た分家と伝わる。代々「仙八」を名乗り、家業として続けた眼科医でも名を残している。

富永讓家文書のうち多数を占めるのは、土地の売買および金銭の貸付にかかわる文書で、5,000点を超える。その中には、近世の質地証文や明治以降の土地売買証文、金銭の貸付証文だけでなく、小作米の取立に関する帳簿、入立米に関する証文、小作米積預証文、水入証文、土地取引や金銭貸借にかかわる訴訟関連文書など、多様なものが含まれている。

天保5年（1834）の「所々村々掛持取持高口々取点検帳 神田村富永仙八」〔資料番号1474-1144-1〕によれば、「原富永家」は、現在の三和区・頸城区・合併前上越市北東部など広範囲に亘って、1,043石余りの村外掛持高を有していた。残されている中で最も古い質地証文は明和6年（1769）のものであるが、かなり早い段階から質地集積を進めていたものと考えられる。

富永讓家文書には、幕末に一時的に本郷村兼帯庄屋を勤めていたことがわかる以外には、村役人としての肩書を記した文書は少ない。しかし、御用留・割賦帳等の年貢の上納関連文書などが多数残されていることや、いわゆる「天和検地帳」が文書群に含まれていることから、「原富永家」は、近世を通じて村の運営に深くかかわっていたと推測される。

また、慶應2年（1866）の「乍恐以書付奉願上候」〔資料番号1474-2353-1〕では、金百両を才覚金として川浦代官所へ上納していたことが記録されている。

享和元年（1801）生まれの2代仙八は、長崎で学んだ後に眼科医として開業した。文人としても高名で、「竹村」と号して紀行文・歌集なども残し、関連する貴重な文書も多数残されている。

眼科医としては、自身の知見を具体的に示した「北越医官富永記 眼科拔粹」〔資料番号1474-6653-1〕や「眼病治療集」〔資料番号1474-5763-1〕などがあり、文人としては、北国

街道の宿場の様子を戯歌と滑稽画・風刺画で表現した「吾嬬紀行」〔資料番号 1474-4174-1〕などが貴重である（図 1 は「吾嬬紀行」の原図の一部と考えられる「色絵」〔資料番号 1474-4485-1〕）。

慶應 2 年（1866）生まれの富永孝太郎は、2 代仙八（号竹村）の孫にあたり、高田中学、東京開成中学で学んだのち、アメリカ合衆国のイリノイ大学に留学している。帰郷してからは、戸長、小区長、美守村長、副大区長を勤め、至誠信用組合をはじめとする農業組合事業、耕地整理事業等に尽力し、後に新潟県信用組合連合会長や衆議院議員を歴任した。

孝太郎の農業組合事業は、農村の経済的自立を促すことを目的とし、当時の岩船郡・北蒲原郡・佐渡・南魚沼郡など県内市町村の農業振興計画・経済厚生計画が残されている〔資料番号 1474-6071-1 など〕。また、衆議院議員に関連する資料として「帝国議会報告」〔資料番号 1474-6180-1〕や若槻礼二郎書簡〔資料番号 1474-7998-1〕、桂太郎書簡〔資料番号 1474-5008-5〕などが含まれる。

川上善兵衛とは義兄弟の関係にあり、ワイン販売の「日本葡萄酒株式会社」を設立して社長を勤めるなど親交も深く、善兵衛からの書簡や「日本葡萄酒会社」の経営に関する資料も多く残る。

特色ある資料として「家屋見取図」〔資料番号 1474-4176-1〕を挙げることができる。現在、富永家跡地には土蔵と稲荷の祠のみを残すだけであるが、鬱蒼とした松林に囲まれた広い敷地が残されており、かつての地主の繁栄をしのぶことができる。この広大な屋敷地に建てられていた豪農の居屋敷の図面には、かつての建築の詳細が記録されている。

このように、富永家文書には、地主経営や村政文書に関するものだけでなく、眼科医療、地域の文芸、近代の村落自治や農業振興、国政など多様な方面に亘る貴重な文書が含まれ、今後の研究に大きく寄与する文書群であるということができよう。



図 1 「色絵」
富永竹村 「吾嬬紀行」の原図の一部

（今回は富永氏から最初に寄贈された 1 万点余りを紹介しました。その後に追加寄贈された約 5 千点の資料は、令和 8 年度中に公開予定です。）